

有害鳥獣

様々な被害を引き起こす「有害鳥獣」。ここでは本市で被害を引き起こす主な鳥獣や、具体的な被害の全貌を紹介。



イノシシ

【主な被害】
・サツマイモ、飼料作物、稲の食害
・地面の掘り起こし
【被害区域】
・山間部の田畑



サル

【主な被害】
・サツマイモ、タマネギの食害
【被害区域】
・山間部の田畑

タヌキ

【主な被害】
・スイートコーン、落花生、サツマイモの食害
・疥癬病やため糞による生活環境被害
【被害区域】
・山間部の田畑
・住宅地



シカ

【主な被害】
・樹木の食害や剥皮はくじ
【被害区域】
・山中



ヒヨドリ

【主な被害】
・キャベツ、ブロッコリー、ミカンの食害
【被害区域】
・山間部の田畑



アナグマ

【主な被害】
・落花生、飼料作物の食害
【被害区域】
・山間部の田畑
・住宅地



ウサギ

【主な被害】
・稲の食害



被害の現状

「昨年は6袋とれたサツマイモが今年は1袋しかとれなかった」。市内のある農家では、野生鳥獣の食害により収穫が激減したといえます。農作物が餌として食べられてしまう「食害」のほか、作物を掘り起こされたり踏み荒らされたりすることによっても、収穫量は減ってしまいます。



▲イノシシによるサツマイモの食害。地中のミズなどを食べるために行う「掘り起こし」も多く見られる。



▲イノシシが体温調整や寄生虫を落とすために水田で泥浴びを行った跡。稲が踏まれて育たなくなっている。



▲サルによるタマネギの食害。自分で引き抜いて、実だけを食べる。



▲カラスによるごみの食い荒らし。ごみステーションだけでなく、ごみの放置も餌付けになってしまう。

農作物以外の被害

また、野生鳥獣による被害は農作物への食害以外にも。近年、本市で目撃情報が増えているシカ

農山漁村の高齢化が進む中で鳥獣被害は、営農意欲の減退につながり、耕作放棄や離農者の増加など数字以上に深刻な影響をもたらします。

は、枝葉の食害や樹木の皮を剥ぐ被害を引き起こします。カラスは

ごみ捨て場における食い荒らしを行うほか、他の鳥類も畜舎に容易に侵入できることから、糞害による畜産環境の悪化や感染症の原因となる可能性もあります。感染症つながりでは、疥癬病かゆいびょうに感染したタヌキが住宅地に出没すること、ペットへの感染や住民への心理的被害が懸念されています。



▲疥癬病に感染したタヌキ。ヒゼンダニの寄生による皮膚病で、皮膚の硬化や脱毛が起こる。

サルは「遊び」として、植えたばかりの苗を引き抜いたり、ビニールハウスを破損させるといった独特の被害を引き起こします。ある農家の話によれば、知能が高いカラス・サルは農作業の合間に用意していたお菓子等を盗んでいくこともあり、これが餌付けにつながるともいいます。

里山の減少と人慣れした鳥獣

「今のイノシシは人に慣れている。舗装された道路を越えて白昼堂々と畑に出没するどころか、住宅の庭にまで入ってくる」と語るのは猟友会関係者。野生動物と人間の接近は、両者の間にあった緩衝帯の減少がひとつの原因であるといえます。「里山」は自然の緩衝帯であり、誰もが山菜や薪を採取するなど、昔は人の出入りがありました。しかし、現在では管理が不十分な森林が増え、鳥獣が人の生活圏へ接近する状態に。耕作放棄地もこれに当たり、そういった土地が増えたことにより動物と人間との活動域が重なってきたため、鳥獣被害を招く結果となりました。



▲昼間に幹線道路付近の畑に出没したイノシシ。人間との接触は、人的被害の恐れがある。